



一進一退の展開が続く豪ドル相場

2017年7月以降の豪ドルの対米ドル相場は、一時は1豪ドル=0.8米ドルを上回る水準へ上昇したものの、足元は同0.77米ドル前後へ調整するなど一進一退の展開が続いています。一方、豪ドルの対円相場は、豪ドルが米ドルに対して調整する局面で円安・米ドル高が進んだことで、1豪ドル=87円前後で概ね安定傾向にあります(図3)。

対米ドルでの豪ドル相場の軟調の背景には、市場予想を下回った豪州の小売売上高(2017年9月)や消費者物価指数(2017年7-9月期)を受けてRBAの利上げ観測が後退したことや、主要通貨に対して米ドルが強含む傾向にあることなどが挙げられます。

先物市場でのRBAの利上げ観測は後退傾向に

豪州の金利先物市場では、一時は2018年央頃のRBAの利上げ開始が織り込まれていたものの、足元では利上げ観測が後退する傾向にあります(図4)。11月7日時点の先物市場では、2018年末までのRBAの利上げ確率は約6割、据え置き確率は約4割と織り込まれています。

今後は企業部門主導の景気回復が賃金上昇や物価安定に繋がり、低迷する個人消費にも明るさが広がるかが金融政策の先行きを左右するポイントとなりそうです。

根強い投機筋による豪ドル買い持ちポジション

一方、為替市場では、米国景気の堅調やトランプ政権の税制改革の進展などを受けて、主要通貨に対して米ドルが持ち直しつつあり、投機筋の米ドル売り持ちポジションも10月以降は縮小傾向に転じています(図5)。

もともと、投機筋の米ドル売り持ちポジションの調整は主に円に対する米ドル買い持ち(円売り持ち)に主導されており、豪ドルに対しては根強い買い持ちポジションが継続しています。10月31日時点で、投機筋の豪ドル買い持ちポジションは39.5億米ドル(約4,500億円*)の規模にあります。

RBAの利上げ観測後退は豪ドル相場のマイナス要因である一方、足元で中国の鉄鉱石価格が下げ止まりつつあることや豪州の貿易収支が黒字傾向を維持していることが豪ドル相場を下支えしている面もあると考えられます。

(*)換算レート:1米ドル=113.64円

図3: 豪ドル相場の推移

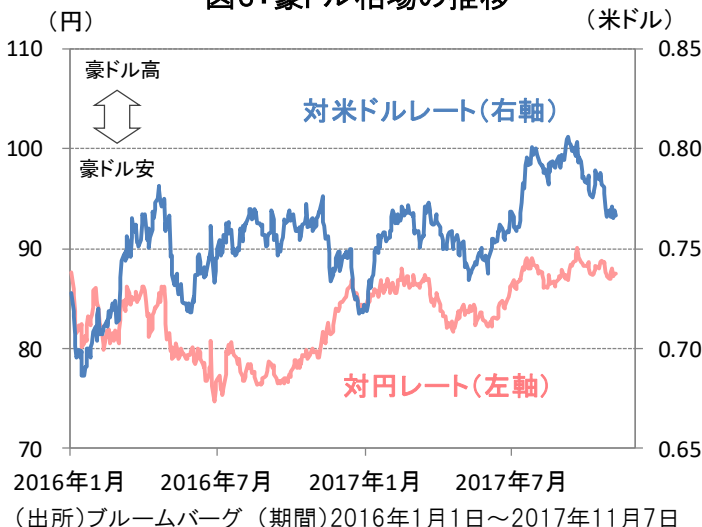


図4: 豪州準備銀行(RBA)政策金利と金利先物

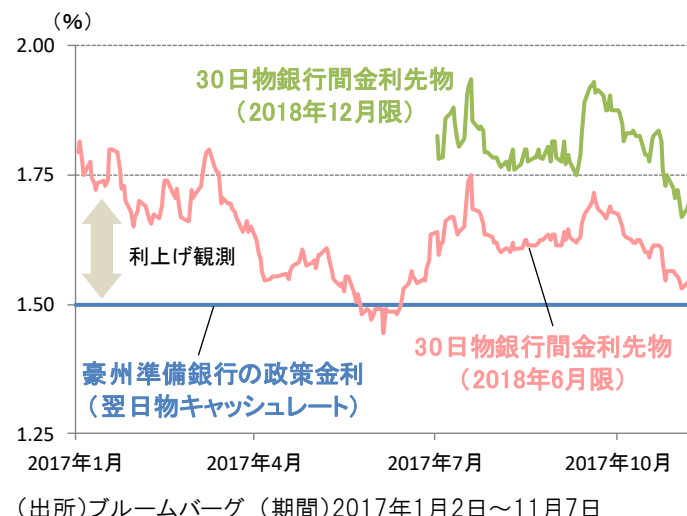
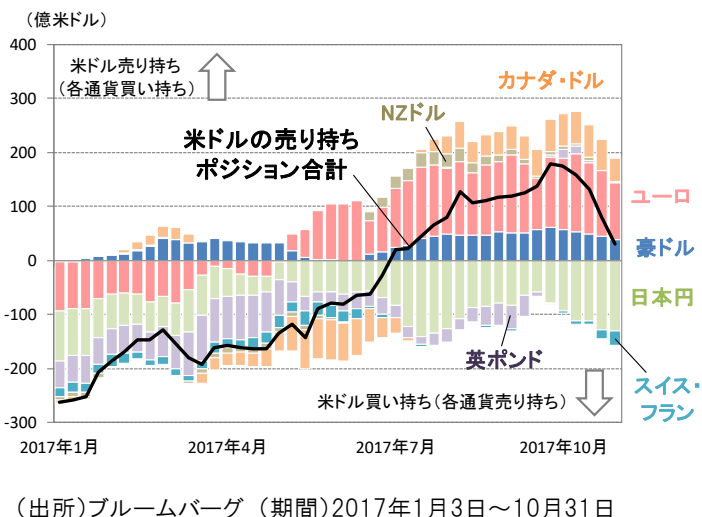


図5: 主要7通貨に対する投機筋の先物建玉



●当資料は、説明資料としてレグ・メイン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としたのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。